

ウイメンズレター WOMENS' LETTER

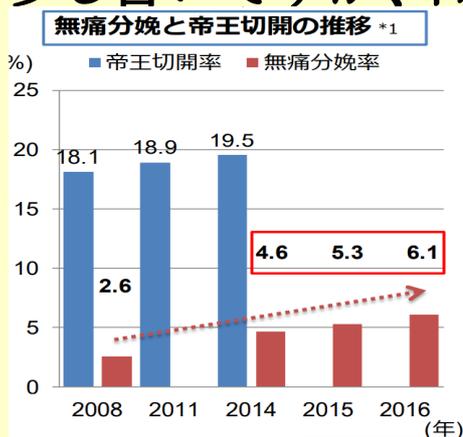
東條ウイメンズホスピタル発行 2021年11月 第10号

産婦人科医コラム 「無痛分娩」

ご出産を控える妊婦さんのお悩みの一つとして、「無痛分娩を選ぶ？ 選ばない？」が挙げられると思います。お産の痛みは怖いですし、海外では多くの人達が無痛分娩を選択するというニュースも最近よく聞くとなると、迷う方も多いようです。とはいえ、海外でも自宅出産が大半であるオランダ、病院での出産が90%以上のフランス、と国によって大分事情が異なるようですが。



少し古いですが、日本産婦人科医学会の以下のデータで



は、日本における無痛分娩による出産の比率が漸増しています。(出典：第61回社会保障審議会医療部会資料5)

当院では無痛分娩に対してどのように臨んでいるのでしょうか。当院の産婦人科医、東條龍一郎のコラムを次頁に掲載致します。

当院のInstagramもどうぞ！
診察情報など更新しております。



東條ウイメンズホスピタル産婦人科医、東條龍一郎です。当院では希望する妊婦の方に無痛分娩を実施しています。無痛分娩とは痛みの無い分娩と書きますが、正確には「痛みを和らげる」分娩です。無痛分娩は陣痛の痛みを和らげることで快適にお産をする事ができると言われています。

無痛分娩には硬膜外麻酔という麻酔法を用います。これは腰の辺りの背骨に針を刺し、脊髄の硬膜外腔という部分に細いチューブを通して、そこから麻酔薬を注入することで分娩時の下腹部から会陰にかけての痛みを和らげるという方法です。チューブから麻酔薬を持続的に注入する事で、お産まで痛みを和らげる効果を維持する事ができます。

お産の痛みが少ないと産後の回復も早く、次の妊娠にも前向きになれると言われています。

その一方で、無痛分娩には、低血圧、足のしびれ、局所麻酔薬中毒、全脊髄くも膜下麻酔など、合併症のリスクがあります。また、無痛分娩だと陣痛が弱くなり、お産が長引いて吸引分娩等の処置をする頻度が増加すると言われています。

これらのリスクには注意する必要がありますが、痛みへの恐怖を取り除き、快適なお産ができるということが無痛分娩のメリットです。ご出産については初めての方も、二度目以降の方も気になることがたくさんあるかと思います。ご不明なことがございましたら、ご遠慮なく当院外来までお問い合わせください。



当院のお食事

ご入院中のお食事をご紹介します！



ご夕食のお品書き

- ◆ 豚の燗焼き
- ◆ ネギとイカの辛子酢味噌
- ◆ 白滝とししとうのカレー炒め
- ◆ 野菜おでん
- ◆ ごはん

寒くなってきたのでおでんを食べたい頃ですね。来月クリスマスにご入院なさる方は、スタッフが腕によりをかけたクリスマスメニューを提供させていただきます。クリスマスに入院なんて、とお思いになる方もいらっしゃると思います。少しでもお心が和むお食事を提供できましたら幸いです。※食材の入荷状況等の事情により、内容は年により異なる場合がございます。

次号は12月20日頃発行予定です！
ご意見・ご感想は以下までお願いいたします。
womensletterqs@gmail.com